



The Board of Ambitions

成人式 2021

~ Coming-of-age ceremony ~

※撮影のため一時的にマスクを外しています。

新成人たちの門出を祝う「つくばみらい市成人式」が1月10日、総合運動公園で開催され、301人が参加しました。つくばみらい市では、今年453人が20歳を迎え、新たな一歩を踏み出します。晴天の空の下、見目華やかな振袖や、羽織袴、スーツなどに身を包んだ新成人たちが旧交を温めました。式典で、小田川市長は「さまざまな困難に立ち向かう機会が、これからたくさん出てくると思います。そんなときには逃げずに向き合い、考え、たくさん悩んでほしい。そして負けないでほしい。答えは常に自分の中にあります」と新成人たちに向けてエールを送りました。

新成人代表として、成人式実行委員長の古谷智大さんは「簡単に会えない今だからこそ人との『絆』を大切にし、この状況乗り越えていきたいです。これからの時代を私たちが背負う中で、社会や生活が大きく進歩した明るい時代と言われるよう、自らの能力を伸ばし、何事にも挑戦し、今までお世話になった方々に恩返しができる大人になりたいと思います」と誓いの言葉を述べました。

今年コロナ禍で、開催が危ぶまれる中、成人式実行委員会と市が協力し、できる限り接触をなくし、ウイルスを持ち込まないために尽力しました。事前に抗原検査キットを来場者全員に送付し、式典前日または当日に各自検査を実施してもらいました。また、受付では時間を中学校区ごとに分けたり、不織布マスクの配布、来賓の縮小、招待者以外の入場を制限するなど、さまざまな対策を行いました。

式典後の会食を控えるようチラシで呼びかけ



会場前では抗原検査の結果を1人ずつ確認

私たちがこれからの時代を背負い、挑戦していく。

成人式の開催の在り方について、昨年8月から実行委員会会で検討を重ねてきました。

その中で企画された「The Board of Ambitions」。「コロナ禍でも行える企画とは」と、実行委員たちが考えたこの企画では、事前に新成人たちに葉や花びらの形をしたメッセージカードを配布。そこに新成人一人ひとりが抱負(Ambition)を書いて当日持参し、ボードへ貼り付け、中学校区ごとに四季折々の木々を完成させました。作品は、密にならないように期間限定で、新成人専用ページで公開しました。

もう一つの企画「インスタグラムライブ配信」では、入場できなかった保護者や、参加を見送った新成人のために、オンラインで配信を行いました。また、同アカウンツでは、成人式のアナウンスや、当日までのカウントダウンを行うなど、コロナ禍での成人式を盛り上げるため、さまざまな工夫を凝らしました。

ボードを制作する実行委員たち

成人式の開催の在り方について、昨年8月から実行委員会会で検討を重ねてきました。

その中で企画された「The Board of Ambitions」。「コロナ禍でも行える企画とは」と、実行委員たちが考えたこの企画では、事前に新成人たちに葉や花びらの形をしたメッセージカードを配布。そこに新成人一人ひとりが抱負(Ambition)を書いて当日持参し、ボードへ貼り付け、中学校区ごとに四季折々の木々を完成させました。作品は、密にならないように期間限定で、新成人専用ページで公開しました。

もう一つの企画「インスタグラムライブ配信」では、入場できなかった保護者や、参加を見送った新成人のために、オンラインで配信を行いました。また、同アカウンツでは、成人式のアナウンスや、当日までのカウントダウンを行うなど、コロナ禍での成人式を盛り上げるため、さまざまな工夫を凝らしました。



写真集

①新成人たちが抱負を書いたカードが張られたボード／②新成人を代表して誓いの言葉を述べる古谷智大さん／③交互に椅子を置いて距離を確保／④式辞を述べる小田川市長／⑤席と席の間は1m以上間隔を空けて設置／⑥、⑦マスク姿の新成人たち

■マスク 2000 枚寄贈

のほろだいすけ 野原大輔代表取締役(写真左)から1月8日、マスク 2000 枚を寄贈いただきました。いただいたマスクは、成人式での感染防止に活用させていただきます。ありがとうございました。

【成人式実行委員へのインタビュー】

実行委員長 古谷 智大さん (谷和原中出身)
 コロナ禍ということもあり周りの人からも成人式はできるのかどうか聞かれたり、ずっと不安でしたが、無事に式ができて良かったです。

副実行委員長 林 美里さん (小絹中出身)
 例年どおりとはいかない中でも、成人式は一生に一度の機会なので、できる限り盛り上げていきたいと思いつつながら、準備にあたっていました。



(左から) 林さん、古谷さん、後藤さん、石引さん

副実行委員長 後藤 優佳さん (伊奈東中出身)
 とにかく安全に開催することを第一に考えました。コロナ禍で諦めたことがあったとしても、満足できるものができるなら、と思って臨みました。

副実行委員長 石引 花明さん (伊奈中出身)
 同じ中学校の友人に誘われて実行委員になりました。毎月みんなと顔を合わせる機会があったので実行委員の活動は楽しかったです。